

南秋地域公共交通網形成計画【概要版】

策定：平成 30 年 3 月 編集：南秋地域公共交通活性化協議会（五城目町、八郎潟町、大潟村）

計画期間：平成 30 年度～平成 34 年度（5 か年）

計画区域：五城目町・八郎潟町・大潟村全域

【公共交通の課題と3町村のまちづくりの基本理念】

南秋地域における公共交通の5つの課題

- <広域連携の視点> 広域連携・行政を実現するための公共交通ネットワーク・体制が未形成
- <人の動き・行動の視点> 暮らし・生活の動きに合わせた公共交通サービスが提供できていない
- <バス運行効率・持続性の視点> 既存交通資源の重複・各町村内の公共交通との連携が十分ではない
- <使いやすさ・わかりやすさの視点> 移住者、高齢者への対応など誰でも使える・わかりやすい環境づくり
- <まちづくりとの連携の視点> 観光振興、健康増進等の関連事業・プロジェクトの連携が十分ではない

+

3町村の「総合計画」における基本理念・将来都市像

- 五城目町：「人とまちが響きあう ころやすらぐ 悠紀の郷 五城目」
- 八郎潟町：「人と地域が輝く心豊かな協働のまち」
- 大潟村：「豊かな自然 みなぎる活力 いいきいき 元気な大潟村」

【基本理念】

都市と自然が調和し、交流と連携の促進を支える公共交通ネットワーク
～3町村が輝き 響きあい 元気を創造するネットワークを実現～

【基本方針】

基本方針①：3町村広域連携公共交通軸の形成・再編

- 3町村それぞれの上位関連計画の「将来都市像」を実現するため、3町村を1つの地域として捉えた、公共交通網を形成し、コンパクト+ネットワークを実現する。

【プロジェクトの方向性】

- 大潟村～八郎潟町～五城目町間を結ぶ地域間幹線交通の導入
- 誰でも利用できる地域内交通に見直し、利便性向上
- 3町村の各主要拠点の連携強化

基本方針②：主要な施設を交通拠点化・賑わい創出

- 人の動き・目的別行動に合わせ、3町村内の主要施設を「交通拠点」として位置づけ、まちの賑わいにつながる公共交通網の再編を行う。

【プロジェクトの方向性】

- 3町村内で運行する地域内交通と接続する交通拠点づくり
- 病院施設・商業施設等と連携した待合環境・情報案内機能の整備

基本方針③：誰でもわかり、安心して使える公共交通

- 高齢者への対応、観光客・域外者等、多様な方々が迷わず、わかりやすく、安心して利用できる情報提供・案内、利用環境づくりを行う。

【プロジェクトの方向性】

- 誰でも利用できる運行システムの検討（運賃体系、ダイヤ設定、利用促進）
- 誰でもわかる案内・情報提供の検討（マップ作成、デザインの統一等）

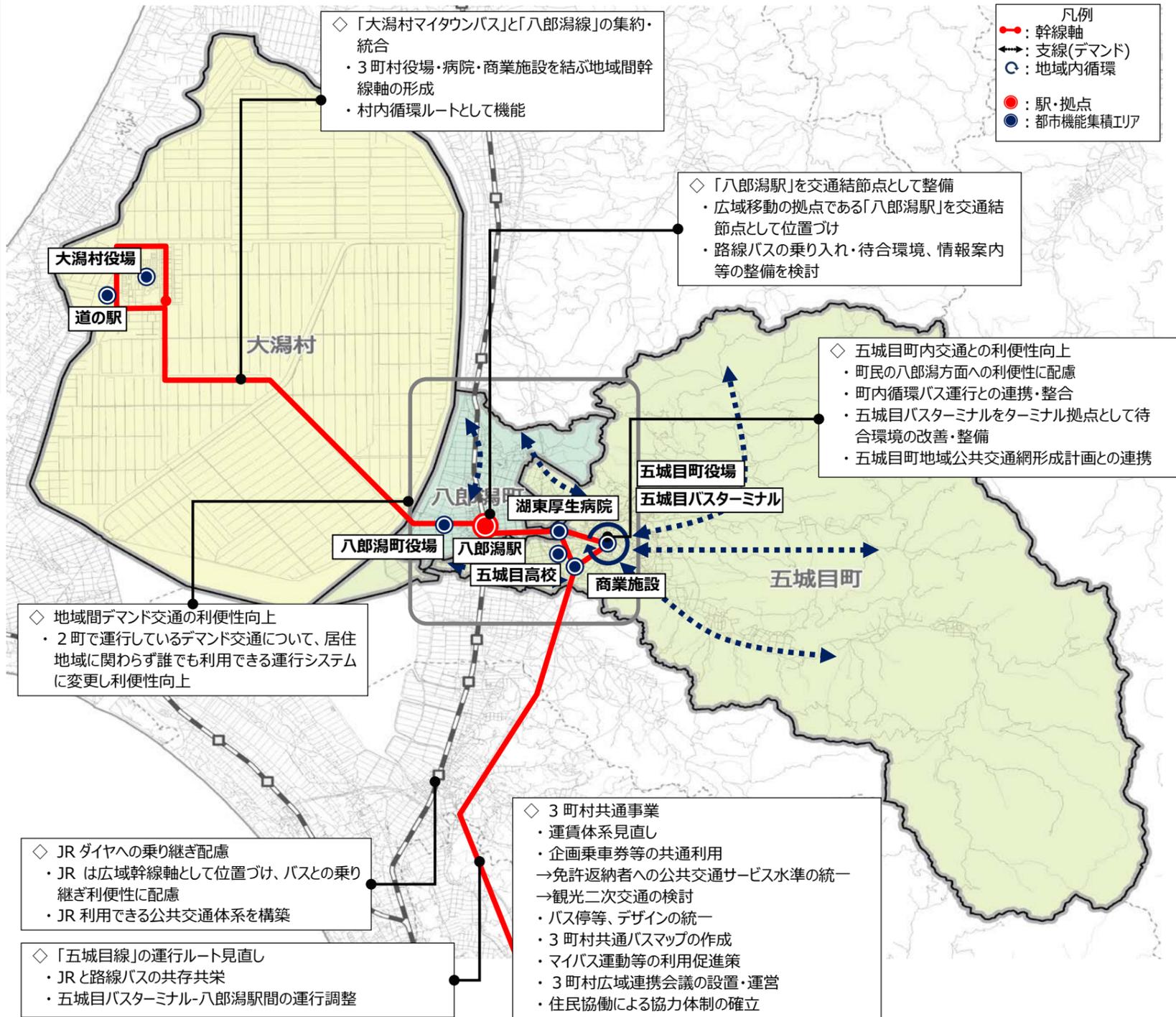
基本方針④：3町村連携による持続可能な運営・仕組みづくり

- 3町村を1つの地域として捉え、広域連携による共通課題の解決に向けた、持続可能な運営・事業の仕組みづくりを検討する。

【プロジェクトの方向性】

- 3町村広域連携会議の設置
- 住民が運営・運行に参画できる、住民との協働可能な仕組みづくり
- まちづくり等施策間連携による持続可能な運営・事業スキームの検討

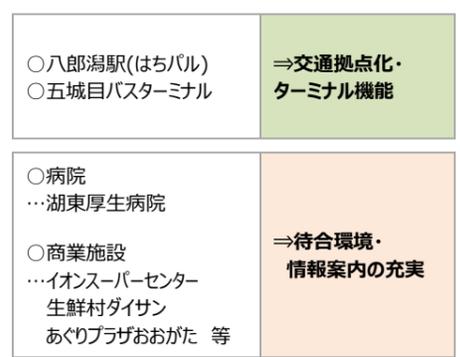
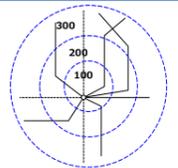
【公共交通ネットワークの将来イメージ】



【基本方針の達成をはかる指標・数値目標の設定】

	基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3	基本方針 4
指標	公共交通再編に伴うバス利用者数の増加	交通拠点の利用者数	ホテルサンルーラル大潟(温泉宿泊施設)の利用者数	公共交通の認知度
現況値	116,102 人/年	100.00%	28,875 人/年	71.70%
目標値(H34)	127,000 人/年	110.00%	30,000 人/年	90.00%
				公共交通利用促進策の実施件数
				0 件/年
				2 件/年
				住民の公共交通に対する意識変化
				54.60%
				70.00%
				まちづくり事業の創設・実施件数
				0 件/年
				1 件/年

【基本理念の実現に向けたプロジェクト】

プロジェクト・施策	スケジュール						実施主体	施策イメージ					
	H30	H31	H32	H33	H34	H35~							
1. 公共交通再編プロジェクト	施策 1-1: 既存交通資源の集約・統合による公共交通の再編	再編プラン検討	実証実験	見直し	本格運行		・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・交通事業者	 <p>▲新たな地域間幹線軸の形成イメージ(施策 1-1)</p>  <p>▲五城目町、八郎潟町の予約制乗合タクシー(施策 1-2)</p>					
	施策 1-2: 予約制乗合タクシー等の運行形態の見直し・改善	再編プラン検討	実証実験	見直し	本格運行		・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・交通事業者						
2. 交通環境づくりプロジェクト	施策 2-1: 「八郎潟駅(はちバル)」、 「五城目バスターミナル(五城館)」 の交通拠点化	整備内容の検討	事業実施・環境改善	運用開始		・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・交通事業者 ・八郎潟駅 (JR 東日本)	 <p>▲プロジェクトの主な対象施設</p>  <p>▲待合環境・情報案内の充実化のイメージ (施策 2-2)</p>						
	施策 2-2: 湖東厚生病院、商業施設等の待合環境・情報案内の充実	各主要施設との調整	調整後、待合環境を提供			・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・施設管理者・事業者							
3. 利用促進プロジェクト	施策 3-1: わかりやすい運賃体系・運行ダイヤの設定	運賃体系の検討	実証実験・検証	新運賃体系の施行		・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・交通事業者	 <p>▲乗り継ぎを考慮したダイヤ設定のイメージ (施策 3-1)</p>  <p>▲区間運賃制のイメージ (施策 3-1)</p>  <p>▲公共交通マップのイメージ (施策 3-2)</p>  <p>▲乗り方教室の実施イメージ (施策 3-2)</p>						
	施策 3-2: 公共交通マップ等による利用促進の実施	マップの企画・作成準備	再編後、公共交通マップの設置、配布			・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・交通事業者							
4. 交通環境づくりプロジェクト	施策 4-1: 住民の公共交通に対する意識醸成	意見交換会等の開催	企画 実施			・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・秋田県 ・住民 ・交通事業者	<p>【STEP1】公共交通に関する地域との意見交換等を通じて、住民意識の醸成を図るとともに、意見・意向を把握。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目的</td> <td> ○各地域の移動実態、公共交通に関する意見を把握する ○公共交通に対する評価を把握する ○公共交通について考える機会を提供し、町民の意識醸成を図る </td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td> A. 公共交通の利用状況や問題・課題点について B. 改善に向けた意見・アイデアについて C. 地域と協働した取り組み・関わり方について </td> </tr> </tbody> </table> <p>地域が求める交通サービスの把握 + 地域住民の意識醸成</p> <p>【STEP2】モデル地域を設定し、検討会等を立ち上げ、公共交通の見直し・改善に向けて、地域が出来ること等を議論。</p> <p>【STEP3】地域・自治会が中心となり、行政や企業の協力のもと、交通事業者に委託サービスを展開する。</p>  <p>▲住民の公共交通に対する意識醸成イメージ (施策 4-1)</p> <p>▲地域主体の取り組みのイメージ (施策 4-1)</p> <p>▲多様な主体との協議イメージ (施策 4-2)</p>	項目	概要	目的	○各地域の移動実態、公共交通に関する意見を把握する ○公共交通に対する評価を把握する ○公共交通について考える機会を提供し、町民の意識醸成を図る	内容	A. 公共交通の利用状況や問題・課題点について B. 改善に向けた意見・アイデアについて C. 地域と協働した取り組み・関わり方について
	項目	概要											
目的	○各地域の移動実態、公共交通に関する意見を把握する ○公共交通に対する評価を把握する ○公共交通について考える機会を提供し、町民の意識醸成を図る												
内容	A. 公共交通の利用状況や問題・課題点について B. 改善に向けた意見・アイデアについて C. 地域と協働した取り組み・関わり方について												
施策 4-2: 多様な主体との協働・連携体制づくり	3町村広域連携会議の設置	準備期間	定期的な協議・調整、連携事業の検討			・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・秋田県 ・住民 ・交通事業者							
	3町村まちづくり施策間連携	準備期間	上記協議・調整を踏まえ、施策間連携の実施			・五城目町 ・八郎潟町 ・大湯村 ・秋田県 ・住民 ・交通事業者							